

モルモン教の魅力的な教えは本当に真実か？

Copyright © 2010, 2005 by Mormon Outreach Ministries, Sydney

末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教会）の宣教師は、何らかのキリスト教信仰をすでに告白している人たちの中で、頻りに伝道をします。彼らは単に、神、イエスや聖書についての先の信仰を土台として、『求道者』（入会見込みのある人）に末日のまことの教会についての知識を知ることによって導いていると信じています。モルモン教会に加わる決定をする前に、モルモン教会員と非教会員の間相互理解が不十分で、誤解の可能性があることを知っておくべきです。その理由は、(1)モルモン教の神学用語と(2)モルモン教会が外部の者に知らせない教えがあるためです。

モルモン教会員と非教会員とは相互理解が不十分？

I モルモン教会は、「天の父」「キリスト」「救世主」「贖罪」「福音」「永遠のいのち」などの標準的な聖書の専門用語を使います。しかしその意味するところは、聖書の本来の意味とは全くかけ離れています。モルモン教会が聖書の専門用語を再定義した結果、モルモン教徒と福音的クリスチャンとは多くの教えを共通していると感じるでしょう。しかし、実際には、両者は共通するところのごくわずかです。モルモン教徒は、「イエス様は、私の『救世主』」と言います。このことは、モルモン教徒にとって、「イエスは彼/彼女を『救った』」ということ、「イエスは彼/彼女が『復活』（注：死後、肉体と霊が再結合すること¹）できるようにして下さった」ことを意味しています。モルモン教徒は、「私たちは恵みだけによって救われた」ことに同意するでしょう。これは、彼らが復活を得るために何の働きもする必要がないことを意味しているのです。 ([Terminological Differences between Mormonism and the Bible](#) 参照)

II 広報を意識してモルモン教会は、モルモン教義の表明を和らげてきています。² モルモン教会はすべてのキリスト教派が間違っている、彼らの信条はことごとく神の目に忌まわしいものである³といったジョセフ・スミスの強硬路線を柔らかくしてきました。「神々となる」との教えもトーンダウンしてきています。⁴ しかしモルモン教会は、スミスがキリスト教の教会について述べたことや、神々となるという教えを、削除も、変更もしていません。こういった教えは、いまだにモルモンの聖典や教会の公式な学習テキストにあるのです。

モルモン宣教師からこのことを教えられましたか？

「神がかつて人であられたように、人もいつか神のようになれる」（ロレンツ・スノー）⁵

モルモン教会は、「天父」はかつては私たち人間のものであり、ある地球に住んでいたが、「昇栄」（注：進歩）して神となったと教えています。⁶ モルモン教会の公式な学習テキスト『福音の原則』（2009年、279頁）は、次のジョセフ・スミスの教えを引用しています。「『神の性格を確実に知ることが福音の第一の原則です。……神はかつてわたしたちのような人であられました。……神御自身、すなわちわたしたちすべての者の御父は、イエス・キリスト御自身がそうであられたように、ある地球に住んでおられたのです。』（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選 [1976年] 345 - 346) 」 今日でもモルモン教徒の子供が最初に習うのは次の対句です。「神がかつて人であられたように、人もいつか神のようになれる」

しかし、聖書は唯一の神以外に神は存在しないことを教えています（イザヤ 43:10,11,44:6,8, 45:21-22）。神はとこしえからとこしえに神です（詩篇 90:2、マラキ書 3:6、ヘブル人 13:8）。『モルモン書』（モルモン宣教師が『求道者』に読むことを薦める最初のモルモン正典）でさえ、唯一の神、変わることはない神を教えています（アルマ 11: 26-29、モロナイ 8:18）。しかし、もう一つのモルモン正典は、この教えを否定しています（『教義と聖約』 121:32, 132:18）。

モルモン教の魅力的な教え

モルモン教宣教師が『求道者』を魅了する魅力的な教えとはなんでしょう？

I モルモン教会は、家族は永遠に一緒にいることができる（『永遠の家族』）と教えています。『福音の原則』（2009年、209頁）はこう教えています。「この祝福を享受するには、神殿で結婚しなければなりません。……主と交わした聖約を守るならば、家族は夫、妻、子供として永遠に一つに結ばれるのです。死によって分かたれることはありません」

モルモン教の『永遠の生命』と『永遠の家族』を持つためには、「神々」にならないといけないことを知っていますか？ 今日のモルモン教徒は「神々になる」ことについて話す代わりに、「昇栄」「永遠の命」や、「永遠の家族」のことを話します。すべてのこれらの表現は、同じことを意味しています。また、「天の御父と同じようになる」とも言います。神々になることが、モルモン教外部に公に教えられたら、多くの求道者は、警戒するでしょうし、モルモン教はキリスト教かどうか疑問に思うかもしれません。

モルモン教義によると、人は天国に行くことができますが、永遠のいのちを必ずしも持つわけではありません。モルモン教会の言う「永遠の命」は「昇栄」することと同義語で、永遠にわたって神として存在し、永遠に霊の子どもをもうける力をいいます。⁷ そのためには、神殿で「エンダウメント」(注：神殿の儀式を通して与えられる力の賜物)を受け、この世から永遠にわたる結婚などをしなければなりません。**聖書では、「永遠のいのち」は真のクリスチャンのすべてに約束されていて、天国にいる者はだれもが、永遠のいのちを持ちます。しかし、天国では神々になるとは、決して約束されてはいません。**ヨハネは次のように述べています。「御子を持つ者はいのちをもち、神の御子を持たない者は、いのちを持っていない。これらのことをあなた方に書き送ったのは、神の子の御名を信じるあなたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである」(ヨハネ第一の手紙 5:12,13、ヨハネの福音書 5:24 参照) 永遠の命は、神からの賜物で、自分の努力で得るものではありません(エペソ 2:8-10)。

イエスは、天国には結婚はないことを教えました。天国での新しい生活に復活する人たちは、娶ることも嫁ぐこともなく、天の神の御使いたちのようです(マタイ 22:30)。天国では、キリストの教会はキリストと結婚しており、神の花婿は花嫁であるキリスト教会に永遠につながれています。キリストの教会は、キリストを信仰で信頼しているすべての人々で構成されています⁸ (黙示録 21:9-27)。(Please see our article "Are Families forever?" 参照)

II モルモン教会は、この世でモルモン教会の「福音」を聞かずに亡くなった人たちは、霊界でモルモン教会の「福音」を教えられていると教えています。⁹ 天で最高の王国の「日の栄え」を受け継ぐ機会があると、教えています。¹⁰ モルモン教義では、死者の霊は霊界でモルモン教の「福音」を受け入れることができますが、これらの霊は体がないので、彼らはバプテスマを施されることができません。しかし、モルモン教の教義では、バプテスマは彼らの「進歩」にとって必要不可欠です。解決は何でしょう？ 生きている者が、彼らの代理として洗礼を施されなければなりません。この教えは家族の一員が若くして亡くなっていたり、最近家族を亡くした人々に魅力的でしょう。モルモン教徒は「昇栄」(神々になる)するために、死者のバプテスマ(身代わりのバプテスマ)をしなければなりません。このことは、モルモン教徒の長期間の「進歩」にとって大変重要だそうです。モルモン教徒は最低4世代の自分の家系をたどるよう求められています。¹¹

しかし、**聖書は死後、悔い改めの機会はなく、死後にさばきを受けることが定まっていると教えています**(ルカによる福音書 16:19-31、ヨハネによる福音書 8:24、コリント人への第二の手紙 6:2、ヘブル人への手紙 9:27)。

そして、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっているように、キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに二度目に現れて、救を与えられるのである。(ヘブル人への手紙 9:27 一口語訳)

([What will happen to those who never had a chance to hear the Gospel of Christ?](#) 参照)

『モルモン書』の中の書物でさえ繰り返し、死後に悔い改めのセカンド・チャンスがあるという思想を完全に否定しています(アルマ書 34:32-35、ニーファイ第二 9:38、モーサヤ書 3:25,16:5, 11, 16:5,26:25-27)。例としてアルマ書 34:35 やニーファイ第二 9:38 をご覧ください。¹² ([Did Jesus establish Baptism for the Dead \(offsite\)](#) 参照)

III モルモン教版の「キリスト教」と現在進行中の「啓示」の混合は魅力的かもしれませんが。モルモン教会には「生ける預言者」(注：モルモン教会大管長)、神に代わって語る人がいることになっています。預言者は神に属する人に指導を与えたり、神の意思を啓示するそうです。若い人や家族が人生の選択肢を決定する際に、最も適切な答えを「特別な」助言としていただける可能性に魅了されることもあります。¹³

しかし、**聖書は(神からの)啓示の最終性を教えています**(ヘブル人への手紙 1:1)。究極の啓示は、人間の歴史の最後の日にイエス・キリストを通して与えられたのです。(Are prophets still needed today? 参照)

IV モルモン教会はキリスト教会の「不和・分裂」を利用して利用しています。モルモン教徒に、よくこのように言われます。「わたしたちの教会は完璧ではありませんが、少なくとも一致しています！」誰もが偽の教会に入会したくないので、唯一のまことの教会というキリスト教会の主張は魅力的でありえます！

しかし、**聖書では教会は組織や宗派ではなく、「時代を超越して神の呼びに応じたすべての真の信者の集まり」と教えています**(注：ギリシャ語の“エクレシヤ”という言葉で、「集会」または、「呼び出された者たち」という定義の単語から由来)(申命記 4:10、ヘブル人 12:22)。イエスはご自身が、ご自分の人々を自分のもとに呼び出しながら教会を建てる、また「黄泉の力もそれに打ち勝つことはない」と約束されました(マタイ 16:18)。神の教会は「神が御子の血であがない取られた」のです(使徒行伝 20:28)。こういうわけで、パウロは次のように祈っています。「教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アーメン」(エペソ人への手紙 3:21)

V モルモン教義の神の概念は、人間の視点からは、はるかに単純で、理解しやすいようです。モルモン教徒は、「三位一体の神を信じている」と言います。実際、意味するところは、父なる神、神の御子イエスはそれぞれ別の神で、聖霊は3番目の神ですが、「この御三方は目的と教えにおいて完全に一致、調和し、一つであられる」¹⁴ とのことです。

多くのクリスチャンは、三位一体の教義の意味することが明らかではありません。三位一体とは、とこしえに存在される真の神は、父・子(イエス・キリスト)・聖霊なる神の三つの人格を持っておられながら、ひとりの神であられる、ということです。¹⁵ しかし、モルモン教義の三位一体の理解(基本的にアリウス)は、聖書で指示されているように見えます(コリント人第一 15:24-28、ヨハネ 20:17)。 次の聖書箇所を研究されることをお勧めします(ヨハネ 5:19-22,17:21-26, 20:27, コリント人第一 15:24-28)。

結論: モルモン教会に入会する人は、モルモン教義を徹底的に理解したのでモルモン教会に加わるものではありません。さわやかで、献身的なモルモン宣教師に好印象を持ち、広範囲にわたるプログラムに触れ、親交のネットワークなどを楽しんだからでしょう。教義の全パッケージはモルモン教会入会後にやってきます。新モルモン教会員は、要求の厳しいライフスタイル、責任や深い教義を徐々に学んでいくことでしょう。

注

- 1 『福音の原則』 2003年、366頁—モルモン教会の公式の学習テキスト、「聖句ガイド項目リスト」(「合本:モルモン書、教義と聖約、高価な真珠」) 1995年、231頁
- 2 2番目の公式モルモンのウェブサイト ([www. http://www.mormon.jp/](http://www.mormon.jp/)) はモルモン教会外部の人のため、モルモン教義のステートメントを柔らかくしています。
- 3 『ジョセフ・スミス-歴史』 1:18-19 (「高価な真珠」)
- 4 『福音の原則』 2009年、279頁
- 5 *The Life and Teachings of Jesus & His Apostle*, p.59 -モルモン教会の公式の学習テキスト
- 6 『福音の原則』 2009年、279頁、 *Search These Commandments-A Melchizedek Priesthood Personal Study Guide*, pp. 152,153- an official Mormon Church teaching manual, *Achieving a Celestial Marriage*, pp.129-132- an official Mormon Church teaching manual
- 7 『福音の原則』 2009年、277頁、『教義と聖約』 131:1-4, 132:19-25, 30, 55
- 8 R. Philip Roberts, *Mormonism Unmasked* (Nashville, Broadman & Holman Publishers, 1998) p.18
- 9 『福音の原則』 2009年、236頁、
- 10 『教義と聖約』 137:7-10
- 11 *Doctrine & Covenants Student Manual*, p448-an official teaching manual of the Mormon Church'
- 12 『教義と聖約』はモルモン教徒に死人のために神聖な、神殿の儀式を受ける必要性を教えています、(『教義と聖約』 128:8, 22,138:54,138:58),これは『モルモン書』と矛盾しています。『教義と聖約』は4つ「標準正典」のひとつで、ほかの3冊のモルモン教の正典を合わせたよりも、モルモン教義を教えています。
- 13 R. Philip Roberts, p.19
- 14 「聖句ガイド項目リスト」 70頁
- 15 Wayne Grudem, *Systematic Theology* (Leicester, IVP, 1994) p.1225